

「平成28年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」

事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

【学校名】 京都市立 西京高等学校定時制

【全校児童・生徒数】 124名

【テーマ】 I II III IV V

【実践研究タイトル】

3・4年生人権学習「車いすバスケットボール」

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

3年生（男性28名 女性9名） 4年生（男子0名 女子1名）

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値	友情（ ）	卓越（ ）	尊重（ ）
	勇気（ ）	決断力（ ）	
	平等（ ）	鼓舞（ ）	
障がいについて理解を深め、すべての人がお互いに支え合い共存していく社会を形成する社会人となるひとつの機会とする			

【種類】

- ・各教科（ ）
- ・道徳
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- ・部活動（ ）
- ・その他（ ）

【実践内容等】

(実践内容)

1 事前学習

車いすバスケットボールについてのテレビ番組「情熱大陸」を鑑賞

2 車いすバスケットボール体験

- (1) 選手紹介・競技説明・模範演技
- (2) 車いす体験・クラス対抗試合
- (3) 選手代表の体験談・質疑応答

3 事後学習

感想文記入、各クラスで意見集約

(実践上の工夫点、留意点等)

- (1) 事前学習で、車いすバスケットボールに関するテレビ番組「情熱大陸」を鑑賞することで、車いすバスケットボールについての知識・理解を深めた。
- (2) 少人数での学習ということもあり、全生徒が車いす体験とクラス対抗試合に参加できる時間を確保した。

(成果)

競技用車いすの操作の難しさ、ドリブルの難しさ、シュートの難しさなどを体験し、苦戦しつつも楽しんでいたように思います。体験後、選手の貴重な体験談では、真剣に話を聞いている姿が印象的で、障がいについての理解や障がい者スポーツに対する関心が深まりました。

生徒の感想文（抜粋）

〈選手の体験談について〉

- ・障がいを持っていても、挑戦することが大切なんだと知りました。
- ・自分もバイクに乗っている所以他人事ではないと感じました。多くの辛いことを乗り越えて立ち向かっていることに感動しました。
- ・何かを失ってもそれでも活躍できる場を見つけることができるのはいいことだと思う。
- ・車いすを使うようになっても出来ることはあるし、いろんなことにチャレンジするのは大切なことだと思いました。頑張っておられる姿を見れて良かったです。

〈全体の感想〉

- ・人権学習で初めて車いすバスケットをやったので、最初はすごい難しいんだろうなと思っていたけど実際にやってみると意外に楽しくていい体験ができました。
- ・今回体験させていただいて、体が不自由だからといって何もかもが出来なくなる訳じゃなくて逆にチャレンジすることがふえて車いすバスケットもそうだけど、足は使えなくても手だけを使ってやる事ができるし考えた方すごいなと思いました。
- ・障がいを持つきっかけは人それぞれだけど、それでも楽しく過ごすことができるんだと思った。
- ・日常の中でもっと神経をとがらせようと思った。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

- ・競技用車いすを借りる場合の、他校との日程調整や運送費用の問題

